

豊岡市が一役

市長、講演へ

セルビア共和国の首都ベオグラードに隣接するパンチエボ市では、1999年にNATOの空爆を受け、化学工業地区の有害化学物質によって土壌や地下水が汚染された。

セルビアの環境改善 コウノトリの縁

県の外郭団体「ひょうご環境創造協会」（神戸市）は2014～17年、国際協力機構（JICA）の「草の根技術協力事業」を通じて、同国で環境調査の専門家を養成した。今月からは3年間の計画で、JICAの同事業を通じ、パンチエボ市での汚染物質対策を含め、環境改善について広く市民に関心を持ってもらう「コウノトリプロジェクト」を始める。

JICAによると、現地には野生のコウノトリ（シユバシコウ）が訪れる自然公園があった。この公園の再生とコウノトリが飛来する自然環境の再生を目指す意味から、コウノトリプロジェクトと名付けたという。

豊岡市によると、前回の事業で同国の環境調査の研修生やベオグラード大の関係者が16年に市内を訪れ、コウノトリの野生復帰を学んだ縁があった。

コウノトリプロジェクトの始まりを告げるイベントとして、今月20日にパンチエボ市役所で開かれる「第1回コウノトリ・ワーキンググループ会議」と、翌21日にベオグラード大である「日本セルビア環境交流シンポジウム」に中貝市長が招かれた。

中貝市長は、会議でコウノトリの野生復帰について説明し、シンポでは「コウノトリも喜らせるまちづくり」と題して講演する。

中貝市長は「豊岡の取り組みを紹介し、セルビアの人々を勇気づけることができれば」と話している。

JICAによると、プロジェクトには、ワーキンググループのメンバーの豊岡視察も組み込まれている。

（今林弘）

姫路城マラソン中止 新型肺炎で

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、県内でもイベントの中止が相次いでいる。

姫路市は19日、23日に予定していた「世界遺産姫路城マラソン2020」を中止すると発表した。3月1日開催の東京マラソンが一般参加者枠を全面的に取りやめたことなどを考慮したという。

市スポーツ推進室によると、約1万3千人が参加申し込みを済ませていた。申し込み規約に基づき、参加費の返金はしない方針。参加でき

市長「苦渋の選

トラック事故で 営業所長を起訴

業過致死傷罪

神戸市灘区で昨年9月、大型トラックが乗用車などと相次いで衝突して9人が死傷した事故で、トラックのブレーキに不具合があることを知りながら対応を怠ったとして、神戸地検は19日、運送会社「サンサービス」（大阪府摂津市）の九州営業所長、樺英二容疑者（63）を、業務上過失致死傷

罪で起訴し、起訴状によ

記者が経験 警察保護へつないだ40分間

「やめてー!」叫ぶ女性に戸惑い

午後6時すぎ。JR神戸駅近くで立っている、帽子をかぶった小柄な高齢女性に「阪急電車はどこですか」と尋ねられた。

JRで三ノ宮駅に行き、乗り換えるよう伝えると、「ここは三宮ですか?」。切符を一緒に買い、いくら

説明しても会話が噛み合わない。

「この方、認知症かも」。駅員に耳打ちし、任せた。

「こちらで対応します」と駅員。少しほっとしてその場を離れた。

数分後、女性はもとの場所に1人で戻ってきた。

人に出会ったら

に迷った認知症とみられる高齢の女性に不明者は増え続けており、誰もがそんなるためには、心構えが必要だと感じた。

法は

警察庁によると、2018年の行方不明者の届け出

約1万7千件で、年々増えている。同年に発見された

で

が現場に到着間、次のよう

「すぐに警

ので、女性に

ください」。

少し距離を取

をつける。

片側4車線

目の前に迫っ

近づけば、女

び出してしま

や、近くに

ざとくとき

い」。

女性の両肩

「やめてー!」

—ス



▶豊岡支局
〒668-0025
豊岡市幸町13-20
TEL0796 (22) 6151
FAX0796 (29) 2338

購読のお申し込みは
0120 (34) 3733
広告のお問い合わせは
神戸・阪神・淡路地域
078 (371) 0112
但馬・丹波・播州地域
079 (234) 8590

県、地元機関と連携

国の特別天然記念物、コウノトリの野生復帰を豊岡市で成功させた県は、8千キ以上離れた東欧のセルビアで、ヨーロッパコウノトリ(シユバシコウ)の生息環境を再生させるプロジェクトに乗り出す。現地ではコソボ紛争の爪痕が、今も環境汚染を引き起こしており、県は地元機関と連携しつつ、海外でもコウノトリが舞う自然をよみがえらせたいと願っている。

プロジェクトは今年からの3カ年計画で、首都ベオグラードに隣接したパンチェボ市で進められる。同市では1999年のコソボ紛争に伴う空

セルビアに再びコウノトリを



コウノトリの野生復帰を目指すポニャビツァ自然公園(県環境研究センター提供)

環境再生へ 技術移転図る

爆で化学工場が破壊され、毒性の強い物質が流出。土壌や地下水が汚染され市民生活に深刻な影響をもたらした。紛争終結後の2014年から3年間、県環境研究センターではJICA(国際協力機構)とともに、現地の残留性有機汚染物質の分析を手がける人材育成を進めた。こうした縁を背景に県は今回、かつて多くのコウノトリが羽を休めたパンチェボ市内のポニャビツァ自然公園(約194畝)に着目。コウノトリの飛来が激減した環境を改善させる取り組みを始める。

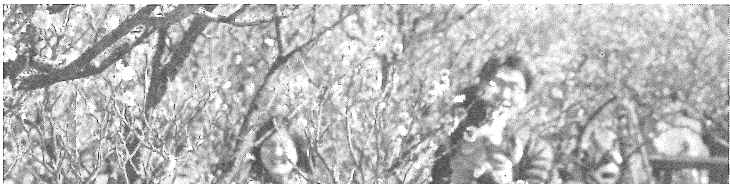
今年20、21日には現地でシンポジウムが開かれる予定で、県からはコウノトリの保護、増殖に努める豊岡市と県立コウノトリの郷公園の担当者も参加。年に3回、専門家チームを現地に派遣するほか、同市から研修生を受け入れてリーダーを育成し、環境再生のための技術移転を図る。

同センターの中野武参与は「産官学民協働で知恵を出し合い、現地の若者らが自立して環境改善に取り組めるようにしたい」。郷公園主任研究員で県立大の出口智広准教授は「現地を観察した上で、これまでの実績をもとにした計画を立案したい」と話している。(河合洋成)

学生短歌コンクール

審査した。
主な賞の受賞者は次の通

春の香りに包まれて 須磨離宮公園 梅の花見頃



淡路瓦の生産が盛んな淡路島。「日本三大瓦産地の一つ」と紹介すると、「他の二つはどこか」とよく聞かれます。一つは愛知県高浜市を中心に生産される三州瓦、もう一つが島根県の石州瓦です。

その高浜市の「やきもの里かわら美術館」で17日、「みんなのオリオン座コンサート」が開催されました。毎年冬の時期に開かれる市民参加型のコンサートなのですが、今回の目玉は瓦を楽器とする「瓦の音楽」。私が理事長を務めるNPO法人淡路島アートセンターが平成25年から、音楽家の野村誠さん、やぶさみこさんと一緒に展開してきた事業です。

私たちは淡路島の幼稚園や小学校、公民館、商店街などでの「瓦の音楽コンサート」をはじめ、インドネシアやイタリアとの国際交流、尼崎城の完成記念演奏などで瓦の音楽を行ってきました。そしてついに三州瓦の産地に登場です。

コンサートの開催に合わせ、地元業者から三州瓦の提供を受けて高浜市内8カ所に「瓦の楽器」を自由に演奏できるステーションを設置。中学校の美術部にポスター作成